生殖医療科　研修プログラム

１　研修先

生殖医療科

２　指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

３　診療科基本スケジュール

（１）研修期間　　自由選択研修　４週間　　**※自由選択が１回目の研修は当該期間を短縮することはできない（延長は可）が、２回目以降の研修は短縮することができる。**

（２）　配置予定

	自由選択研修
病　棟	・指導医の下で受持医 ・１年次のサポート（２年次の場合）
外　来	指導医の下で、外来患者を適宜診察
検　査	経膣超音波、子宮卵管造影、子宮鏡
救　急	時間内救急対応

（３）週間予定表

	午　　前	午　　後
月	採卵 外来業務(含む IUI) 病棟回診 手術カンファレンス	胚移植 外来業務(含む IUI) 子宮鏡検査
火	採卵 外来業務(含む IUI) 子宮卵管造影(HSG) 病棟回診 受精方法カンファレンス	胚移植 外来業務(含む IUI) 子宮鏡検査
水	採卵 外来業務(含む IUI) 病棟回診	胚移植 外来業務(含む IUI) 子宮鏡検査
木	英文抄読会（7:50～） 採卵 外来業務(含む IUI) 子宮卵管造影(HSG) 病棟回診 産婦人科との合同カンファレンス	胚移植 外来業務(含む IUI) 子宮鏡検査
金	採卵 外来業務(含む IUI) 病棟回診	手術

４　研修目標

・患者が抱える問題を、丁寧な問診と身体診察（含内診）を心がけることで適切に把握できる。

・臨床推論に基づき、適切に鑑別診断をあげることができる。

・頻度の高い疾患を想定しつつ、見逃してはいけない疾患の除外にも配慮できる。

・病歴、身体所見（含内診所見）、鑑別診断、診療計画を診療録に記載し、プレゼンテーションを行い、

指導医に的確に症例報告ができる。

・外来でよくみられる疾患、代表的な疾患、見逃してはいけない疾患に対し、指導医とともに適切な診断・治療・フォローができる。（特に２年目の一般外来研修）

・外来診療のみでなく、胚培養室、精子処理室にて胚培養士の業務内容を理解し、業務の補助ができる。

・身体的疾患のみならず、患者・家族の心理社会的背景にも拝領し、問題解決を図るべく、チーム医療が実践できる。

・病院だけでは解決できない問題に対し、長期的かつ広汎な視点を持ち、家族形成の在り方を学ぶ。

５　経験すべき症候・疾病・病態　（赤文字下線付きは必須項目）

経験すべき症候(※1)	妊娠･出産
経験すべき疾病･病態(※2)	特定のもの:なし

※1　外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。
※2　外来又は病棟において、上記の疾病･病態を有する患者の診療にあたる。

６　経験すべき手技

特定なものなし

７　実際の業務

・病歴聴取、身体診察（含内診）を行い、指導医にプレゼンテーションを行う。臨床推論に基づき、考えるべき鑑別診断をあげ、検査・治療を含む方針を決定する。

・指導医とともに病状説明・患者教育を行う。

・毎朝、チームで診断、方針についてディスカッションする。

・不妊症、不育症に対する初期検査を的確に行い、指導医とともに治療計画を立てる。

・休日の外来診察、病棟回診等を指導医とともに行い、入院患者への細かな診療、配慮の重要性を学ぶ。（※生殖医療科は、体外受精の卵胞観察等、必要な外来診療の一部は休日も行っている）

・外来研修では、外来診察医として指導医の指導のもと、外来患者の診察を行う。
（※外来患者は、新患（診断がついていない初診患者等）、予約外患者（当院通院中の患者の予約外受診）が主）。特定の症候や疾病のみを診察する専門外来（遺伝外来や妊孕性温存外来など）の外来は含まない。）

８　指導内容

・症例プレゼンテーション、診療録に関するフィードバック

・ベッドサイドでのリアルタイムの指導・フィードバック

・紹介状や退院サマリーの確認、フィードバック

・個々の症例に対するマネジメントの相談、指導

９　方略・評価

・診療科基本スケジュールに沿って研修を行うほか、オリエンテーション（不妊症や不育症のマネジメントの要点説明等）や病棟回診、患者・家族説明への同席、カンファレンスを実施する。

・担当医として経験した症例を指導医にプレゼンテーションを行い、指導を受ける。
・研修終了後、指導医、メディカルスタッフから評価、フィードバックを受ける。